

| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
|------------|-----|-----|----------|
| 1年前期 | 1 | 1 | 必修（教職必修） |
| 担当教員 | | | |
| 富田 寿人・平川 猛 | | | |
| 添付ファイル | | | |
| | | | |

| | | | |
|--------------|---|---|--|
| 講義概要 | <p>生涯スポーツがさげばれているが、一般社会人の中で運動習慣を実際に持っている人はわずかで、ほとんどの人は運動をしていないのが現実である。また、生活習慣病の検診の結果、要注意となった人の大半は日頃運動習慣のない人である。このように運動習慣を持つことは体力的ばかりでなく、予防医学の観点からも重要であることは周知の事実である。</p> <p>本授業ではスポーツの楽しさを知り、運動することを身近なものにすることを目的とする。さらに、総合的な体力の向上も図る。</p> | | |
| 授業計画 | 1 | ガイダンス 授業の進め方や注意事項の説明を行う | |
| | 2 | テニス ① グリップとフォアハンドストローク 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 3 | テニス ② フォアハンドストロークとバックハンドストローク 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 4 | テニス ③ ボレーとサーブ 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 5 | テニス ④ ダブルスゲームのルールとポイント 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 6 | テニス ⑤ ダブルスゲーム① ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 7 | テニス ⑥ ダブルスゲーム② ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 8 | テニス ⑦ ダブルスゲーム③と実技テスト ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 9 | ユニホック ① ルールとパス 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 10 | ユニホック ② パスとシュート 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 11 | ユニホック ③ チームとしてのオフenseとディフェンス 動きの確認についてAL①を行う | |
| | 12 | ユニホック ④ ゲーム① ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 13 | ユニホック ⑤ ゲーム② ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 14 | ユニホック ⑥ ゲーム③ ゲームの評価についてAL①を行う | |
| | 15 | 総括と実技テスト 総括と実技テスト | |
| 授業形態 | 実技 アクティブラーニング：①：13回，②：0回，③：0回，④：0回，⑤：0回，⑥：0回 | | |
| 達成目標 | 1. スポーツ種目の基本的な知識と技術の習得をしている 2. ルールとチームワークを尊重する姿勢を持っている 3. 体調を整え、スポーツ活動に参加する体力を獲得している | | |
| 評価方法・フィードバック | 実践活動50点、取り組み20点および実技テスト30点として評価する。 フィードバックとしては、実技中または実技後に技術指導を行う。 | | |
| 評価基準 | 評価点が100～90点で目標3項目を達成していれば「秀」、89～80点で目標3項目を達成していれば「優」、79～70点で目標2項目を達成していれば「良」、69～60点で目標2項目を達成していれば「可」、59点以下であった場合は「不可」とする。 | | |

| | |
|---------------------|---|
| 教科書・参考書 | 教科書：特になし 参考書：特になし |
| 履修条件 | なし |
| 履修上の注意 | 持病を持っていたり、長期にわたる運動制限がある場合は、必ず担当教員に申し出ること。必要に応じて、診断書などを提出してもらうこともある。 |
| 準備学習と課題の内容 | 事前にルールなど、実技に関する知識を学習しておくこと。（予習復習それぞれ1.5時間程度） |
| ディプロマポリシーとの関連割合（必須） | 知識・理解：10％, 思考・判断：20％, 関心・意欲：30％, 態度：10％, 技能・表現：30％ |
| DP1 知識・理解 | |
| DP2 思考判断 | |
| DP3 関心意欲 | |
| DP4 態度 | |
| DP5 技能・表現 | |